高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区
阪南町中一丁目
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集発行人　御崎欣哉

昼食・飲物は
みのわ
校内食堂

本号内容

一面……就職特集
フォト・コンテスト案内
二面……野球部一〇年の歩み
三面……大阪大会の思い出
四面……新春横顔集
旧選手の横顔
クラブ研修旅行……虎の巻
特集

昭和34年度の就職戦線

8月15日（公立・私立高校／衛星都市）一斉採用試験開始

早すぎる就職戦線

「六・三・二制」の教育制度？

来るべきものがやって来た。昭和三四年度の就職戦線である。

今年の各企業会社の採用試験は昨年の九月十五日より、一ケ月早い八月十五日より採用試験をするよう（八月十二日、内申書締切り）文部省、労働省を通して府職業安定所に伝えられ、又学校、各企業会社にもこの線を守るよう通告して来た。

こうなれば早く合格した者は、勉強しなくなるし、合格が遅れる者との間に溝が出き、教室内に暗い空気が漂い、勉強に悪影響を及ぼす問題が起って来る。すなわち今世間で問題にされている「六、三、二制」だ。採用試験をもっと遅らせといわれているが、大学生とって人生を左右するからだ、

昨年度の公立高校一斉採用試験に代って今年は公立、私立、衛生都市一斉に行なわれた。しかも本校は今までの伝統を破らず、一人一社の線で敢旋する（他校で一人二社の所もある）ので、不利を覚悟しなければならない。むしろこの点については「一人二社受験させて二社共パスした場合、一社を断わるという不利な条件が起って来る、そうなれば一社に対して信用を落すので、本校では一人一社の線を守っている訳だ、だからこの点を会社の方に話してあるので心配はない。」

と学校当局ではいっている。だから本校では学力の差で他校を引き離す他に方法がない。服装の点でも本校には派手な者が見渡らないので大丈夫。

一方求人会社件数であるが、七月二一日現在では九一社、八月二十日現在では一四〇余社という、他校にはひけをとらない程多くの会社が申し込んで来ている。中でも大企業が圧倒的に多く、ついで中小企業である。

就職希望者の就職先も左記の表を見ても、よく分るように七月二一日現在すでに一〇二名（他に縁故者が数名追加）が決定している残りの二〇余名も

「先生とおりました……」
「よかつたねえ」＝職員室で＝

応募者数内訳（S・34・7・21現在91社について）

	女子		男子		計	
	求人数	応募数	求人数	応募数	求人数	応募数
銀行	80名	21名	13名	1名	93名	22名
保険会社	11	17	3	1	14	18
証券会社	23	7	9	2	32	9
商事会社	12	11	3	0	15	11
各種製造業	101	27	33	12	134	39
百貨店	17	3	6	0	23	3
計	244	86	67	16	311	102

（注）求人数に於ては、若干名追って通知を省いたのでこれより多少ふえる見込み。応募数も一部変更がある。

八月二〇日現在では一四〇余名という多くの会社が来ているので、就職先は心配ない。しかし一つの問題がある。例に上げると九〇社（七月二十一日現在）の中四〇社に応募五〇社を見送るという事である。不幸にも不合格となったものは「九月以降の第二回からは就職指導会議をひらき、一人二社受験さす場合がある」（福井先生談）といっておられるので、第二回目から前途に希望を抱いてガンバリ、幸にも合格した者は、心をゆるめずその後も勉強に励んでほしい。

今年の経済界の見通しは明るいが、決して油断してはいけない。

しかし全員合格するのは早くて正月、遅くても三月の見込みである。是非とも全員合格の通知を早く聞きたいものだ。

無事終る水泳講習

8月16日より21日迄、例年通り一年生は水泳講習を受けた。初日一度も泳がずにぶつつけ本番の組分けに驚きながらもゆうゆうと見事な泳ぎぶりを見せていた。やはり予備初級は多く中級上級は驚くべる程の人数だった。しかし分けるに当っては先生によって審査に対して多少の違いがある様だった。

予備初級は二班に分けられたが、人数が多いのでプールがせまく練習がうまく行かなかった様だったが、21日の試験には9割強が、一級ずつ進級した。

岩尾君病気欠場

全国高校硬庭大会

去る8月5日から中モズで行なわれた全国高校硬式テニス選手権に応募して大阪代表として出場するはずの岩尾勝行（三年）君が病気の為出場をよきなくした。

アンーケント

男女同行を希望

九州案は立ち消え

修学旅行委

米年の五月頃行なわれる現二年生の修学旅行のコース等を選定するべく去る6月26日に発足した旅行委員会（委員長金谷隆夫君）の委員13名と荒木・富田・渡辺先生によって着々とその準備が進められているが、夏期講習中に行なわれた「コース・アンケート」では「講習中でもあり人数ははっきりとつかめなかった」（委員長談）が関東案には二百名、九州案には九九名と大差が出た。なお今年実施された男女同行に関しては賛成二七〇名、反対三名で来年度から男女同行が熱烈に希望されている。夏休み中の同委員会の動きを委員会ノートからの抜萃で見ると、

・第一回　七月十四日
休み中の計画を立て毎日午前九時より開くことを決める。

・第二回　七月二十日
種々のアンケート準備

・第三回　七月二十一日
アンケートの整理

・第四回　七月二十七日
時間割当並びに地図作成

・第五回　八月二日
時間変更して午後二時始める。コース研究。

・第六回　八月八日
渡辺先生並びに交通公社の人に来てもらうて相談。

・第七回　八月十四日
交通公社と渡辺先生に来ていただいてアンケートコース＝富士五湖＝方座＝東京＝の時間・費用について交通公社に調査依来。

・第八回、八月二十二日
十四日の件は時間・費用共オーバしてダメ。別コースについて二学期再調査。

北樋口先生が保健室へ帰任

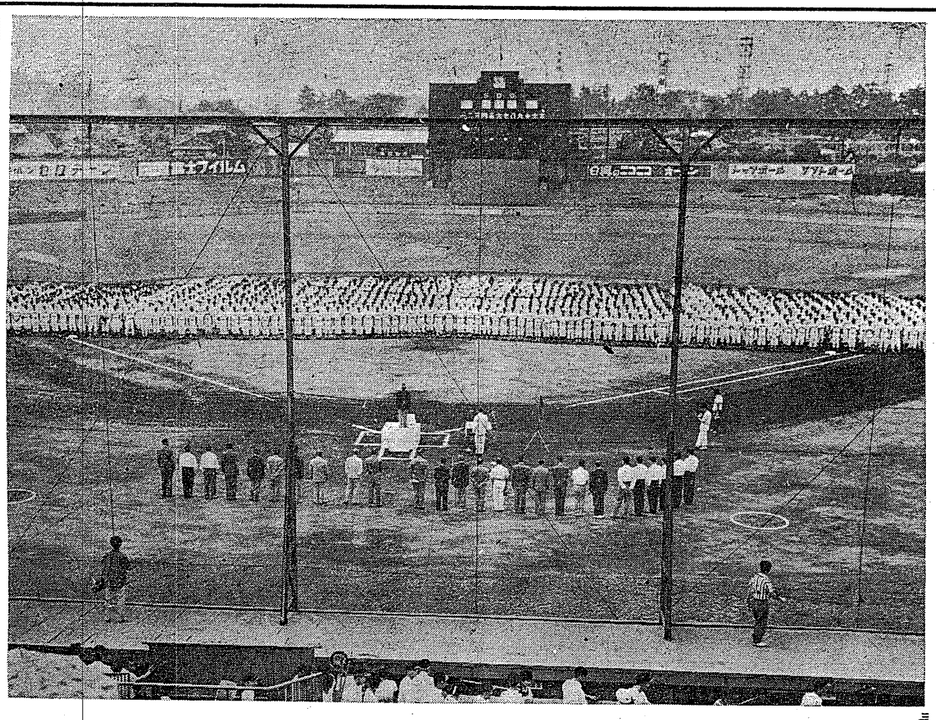
五月一日から七月三十一日まで、おめでたで休まれていた本校養護相当の北樋口先生が八月一日付で再び本校の養護を担当される事になった。

なおその間特別にきていただいた中谷先生は七月三十一日付でおやめになり勝山高校へ転勤された。

講習

出席状況は次第に悪化

例年通り1、2、3年生の夏期講習が7月20日前後より8月初め迄朝の涼しいうちに各ホーム・ルームに於て行われた、科目は英、数国など。出席状況は最初は良かったが、終りに近づくに従って少し減った。原因は暑さと野球の応援なカリキュラム



堂々進優勝を遂げる

最終戦八尾に屈す

期待大きい来年度

全国高等学校大阪府予選

第四十一回全国高等学校野球選手権大会大阪府予選は、去る七月二十一日より三十一日迄藤井寺・日生・中モズの各球場で、今年初出場の関西経済学院を加えた総勢一〇二校の間で華々しく甲子園の出場権を競った。

本校の野球部は第三〇回大会以来、今年で十一回目の出場である。その間、先輩の築き上げてくれた伝統を守りつゞけ、ただひたすら〝若人の夢甲子園！〟をめざしてこの一年間練習、練習……にはげんで来た。

今大会本校は下馬評でもダークホースの一校に上げられていた。大会のフタを開けてみると本校は戦前の期待通りに、生野高、天王寺高、園芸高を破った。その頃浪商高、富田林高という優勝候補が相ついで敗れるという番狂わせが起り、優勝の行方は全くわからないまま後半戦へと突入した。

この頃から本校は連日の試合で疲れ、精神力で戦った。岸和田高を再試合で破り、準々決勝は寝屋川高、準決勝は興国商高に不運のエラーが出て勝利を得た。これで野球部創立十一年目にして始めて決勝戦に出場する事が出来た。

甲子園出場を決定する日がやって来た。この日はNHKテレビが全国で最初の予選決勝の模様を実況し、又応援の方も連日声を出し暑さの為、倒れた者が出た応援団を始めとして先生、生徒、先輩、父兄が球場にかけつけ声援を送ったが、惜しまれる事には相手の八尾高には山本高の友情ブラスバンドがあった事だ。本校にも早くブラスバンド部を結成してほしい。さて試合の方は、両校互角に戦ったが本校のエラーからチャンスをつかみ一対〇で八尾高の前に屈した。試合終了後、応援団の前に並ぶ野球部員の瞳には光るものが見られた。しかしながらよく戦った。これを機会にいっそう練習にはげんで来年の春・夏の甲子園への出場権を握ってほしい。

（特集は二・三面）

写真提供朝日新聞社

論説

野球大会をめぐる反省

今年度、本校の野球部は人々が大会予選の準優勝になったことは、何はさておき喜ばしいことである。しかしこの毎年シーズンにくり返される行事に対する我々の対処の仕方は果して完全なるものかどうか反省してみることは決して無意義ではないだろう。

幾つかの問題点を指摘してみたいと思う。

第一に応援をめぐる問題としては、今少し他校並みの水準まで充実させられないものであろうか。成程リーダー々熱心だし、一般の多くの人々もまじめではあるが、全体としての応援団が結局間に合わせのレベルを脱し切れないでいるのである。

出場選手達が大会に主役として参加しているとすれば、応援するものの応援団である限り応援のマナーも耐焼刃以上には習得できず、解決される見込みはない。野球部が平素の練習によってこそあそこまでのレベルに高まってきたのと全く同様に、応援も日頃少しずつの訓練と規律が積重ねられてはじめて、いざという時に後指をさされぬ堂々たる応援ができるということは明白なことである。応援という一つのものはそれを活かせば、講習なに、生徒の心は二兎を追って一兎も得ずに終ってしまうのである。

第二に、この野球大会が毎回丁度夏の講習期間中に行われるため学校側の双方に配慮をわずらわしたいと思うものである。

クニックを行い、緑の中で歌い踊り応援の練習もするという位のシャレタ試みがどうして生れてこないのだろうか。ブラス・バンドを作っては、という声も大きくなりつつあるようだが、ここらあたりでそれも実現されてよいのではないか。

第三に、この野球大会の開催期は次々と起る。一つ二つ着実に処理していくために学校側と生徒側の双方に配慮をわずらわしたいと思うものである。

聖火編集委員会

出来るか!!

斬新な編集

聖火編集委員会が発足してから早や四ケ月立ち同委員会は少しでも例年よりすぐれたものを発刊することを心して毎日毎日全員が仕事をしている。七月十五日の修学旅行（七年ぶりの男女同行）についての座談会をふり出しに七月十八日から本格的に渡って行なわれた。

このはなやかな高校生として最もあこがれる甲子園をめざしての高校野球大阪予選。本校の活躍を少しでも細かく観察しようと同委員会員が色を黒くしてかよっていた。

同委員は本校優勝を夢見ていたのか、非常に残念がっていた。しかし野球部の健闘をたたえ今後の活躍を期待する為に本号に大いに取り上げる方針らしい。八月二十一日には聖火初って以回の新趣向を取入れて本校歴代の会長による内容充実した読みがいのある座談会をし、ここで聖火の特色をあらわそうとしているので期待が持てるその他この十一号では今迄になかった変ったものをどんどん取り上げるとのことである。例年のような自治会の記事も現在資料を集めている。いずれにせよ編集委員はこの夏休みを有意義にすごしているようである。記事内容は、

1特集
一、修学旅行……7年ぶりの男女同行。
二、家庭科クラブ……生まれて？年の女の園。
三、学習上の問題……進学・就職に関連して
①コース制　②理想的
③講習について。
2　自治会のページ
歴代自治会会長による座談会等。
3　今迄になかった新しいものを計画中。

就職内定者

出足は好調

早くも52名出す

今年の就職戦線は、八月十五日より全国一斉に行なわれ、大阪では公立、私立高校、衛星都市一斉に実施された。

就職受験者は学校生活最後の夏休みも返上して、就職戦線に乗り込んだ。今年の経済界の見通しは除々に明るくなりつつあるので、就職係の先生も安心しておられる。

就職内定者の方も、8月27日現在（試験開始より10日間経過）で52名という多くの内定者が出たので今後の就職戦線に、大きな期待がもたれる。

▼以下は内定者氏名（8月27日現在）

住友商事　石島能澤子⑦
住友生命保険　塩見和子⑥
池田百合子⑥
富永睦美⑥
住友信託銀行　中嶋尤子⑦
岸田喜子⑥
三和銀行　栁田みつえ⑥
天野綏子⑦
中谷妙子⑦
三保和子⑦
今西芳子⑦
岩橋章子⑥
野村商券　松本康子⑥
川崎富子⑥
江商KK　今村光珊子⑦
三浦道子⑥
日商KK　高原美喜子⑤
宮沢新子⑤
船田弘美⑦
萱野邦子⑦
伊藤忠商事KK立野　交代⑤
生田郁子⑤
東洋綿花　梶田公子⑥
近藤・幸江⑥
丸紅飯田KK　松原広江⑥
農林中央金庫　岸田逸子⑥
日立家庭電気販売KK　岸田逸子⑥
農林中央金庫　小門妙子⑥
日立家庭電気販売KK　岸田逸子⑥
小門妙子⑥
任友銀行　原田啓子④
高須泗子⑤
黒越靖子⑤
松村美千代⑤
松田きみえ⑤
鈴木叙恵⑥
大矢雅子⑥
吉本富美子⑦
浅香邦子⑦
日興証券　太田秀子⑦
三田勇⑤
早川電機　西浦史子④
第一銀行　江里一章⑤
日本勧業銀行　矢部恵比子⑦
日本生命　山田美智子⑥
赤沢五子⑤
上田保子⑦
福井喜美子⑦
六反田範子⑦
大和銀行　星野久子④
倉敷レーヨン　小洞澄子⑥
伊藤忠石油　石川省治⑤
寿屋　谷弘子⑤
武田薬品　恩地敦子⑦
野田醤油　橋本邦子⑦
（○内の数字はクラス名）

高校阿倍野新聞

百号記念写真コンテスト

多彩な本校行事について

〆切は十月七日

新聞部では多彩な本校行事を基して多種初刊以来十年にして百号を迎えんとするに当りこれを記念すべく左記の要領に従って御出品下さい。

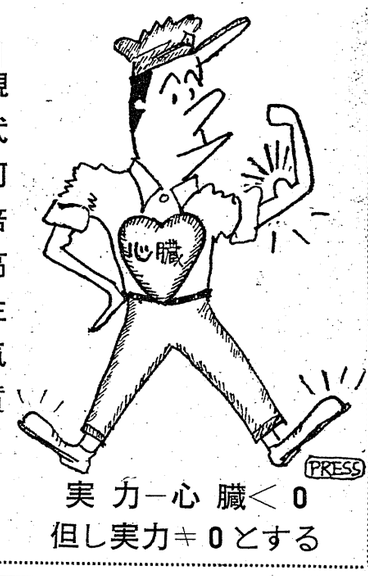
記

一、締切は十月七日（多少変更あり）
一、作品は新聞部部室まで。
一、大きさはキャビネ以上。
一、本校関係の行事ならどれでも可（但、本年四月一十月七日までの写真に限る）
一、組写真はダメ。単写真のみ
一、データー記入のこと。無記入のものは採用しない
一、年・組・名を記入のこと
一、審査員は新聞部顧問渡辺政本先生、写真部顧問石川先生。
一、賞は一席から五席までとしそれぞれに賞品を渡す
（保存のため）
主催　新聞部
写真部
後援　自治会

新聞部

阿倍高アイロニー

＝現代阿倍高生気質＝



実力一心臓＜0
但し実力＝0とする

針の穴

いよいよ九月▼みなさん夏休みはどうでした。本を枕にヒルネしてたって？イイヤそんなはずはないでしょ▼甲子園出場を目の前にちらつかせた野球部の大活躍にじっとしていられる阿倍高生なんてあるもんですかい▼とに角すばらしいでしたネ。準優勝にこそ止まったとはいえ、あそこまでノシあつた実力はやはり大したもの▼「名門アベノ」なんてよばれる日も近いかもしれませんテ、でも野球だけの名門ではチト情ない。就職戦でも優勝、進学戦でも優勝テナ工合にならんもんかいナ。ひとつハリキリッテもらいましょ▼8月15日といえば敗戦記念日。この日の動きを各地に見ればソノ面白いコト／▼身近なところじゃ高校卒業予定者の就職試験が全国一斉に始まって、本校生も汗タラタラ▼と思うと白熱化したこの日の甲子園では八尾高が若狭高を降して準々決勝に堂々進出▼東では山梨・長野の各県が前日の台風七号でサンザンな目にあいシュン。アルプスに登っていた何千人かの男女が山にカンズメきれてサア大変▼ところがこちら涼しき箱根では外遊帰りの首相が敗戦記念日の声明も台風被災地の惨状もキレイサッパリミンナ忘れて、折から来訪のミス・ユニバースなる美女とオハナシ中▼ネタは拾えばきりがないが、いやはや世の中というものは針の穴からのぞいてみれば一体何と申しましょうか。▼ところでこの日を思いがけずウンウン病床でうなって迎えたのが川村センセ。何せいとしい胃袋の半分以上をムネンにも切りとつたというのだから大手術▼われらのホープ〝といつも大向うから声のかゝったセンセだけに同情されることしきり。「私の胃袋を半分差上げたいワ」と太つちょの女生徒が云ったとか云わなかつたとか▼沢池、百田、川村と若いセンセがこうも次々倒れられては、恋愛の相談にいく相手もなくなって困るとは切実なカゲの声▼まあその方はしばらくあきらめて机に向いましょ。今や勉強の秋ですゾ。ペンキョーペンキョー。

第12回　全大阪
高校美術工芸展
市立天王寺美術館
9月2—7日　主催全大阪高校美術工芸研究会

文房具・事務用品・紙製品
大谷文具店
阿倍野区阪南町西1の32
（アベノ校グランド前）

参考書・自習書
各種問題集・書籍
書肆おおさきや
地下鉄昭和町駅前出入口角
田辺街道北東角

廉価と信用で定評のある
各種運重用品の御用はぜひ
大阪スポーツ
アベノ筋6丁目（松虫電停東入る大道筋）
TEL㊻4351

同窓会開催

九月六日に

九月六日（日）にソゴウ百貨店七階大食堂において本校同窓会が開催される。以前は毎年校内食堂において会の進展があり、会費もゼロであったのに対し、本年度は新しさを目ざすため会費三百五十円で行なわれることになったものである。尚、時間は五時四〇分開会。

特集　野球部・思い出多い10年間

野球部十年の歩み

血と汗と涙の歴史

二度の選抜出場逸す

野球部顧問　荒木　信

本校の野球部が正式に高校野球連盟に登録されたのが昭和二十四年と聞いている。だから今年で丁度十年になる。この十年を回顧して何か書けという新聞部の注文である。だが私が顧問になったのは昭和二十六年三月からであるから私としてはその時期から今日までの約九年間の足跡をふり返ってみたいと思う。

近府県大会ベストフォア

昭和二十六年の夏は、山川投手(元関学投手)と小池捕手(元近大主将現大昭和捕手)のバッテリーで一応まとまったチームとして所謂ダークホースと目されていた。それが藤井寺の第一回戦に府立堺工高に1−0でコテンと叩かれてしまった。そこで秋の近府県大会(これが事実上の選抜予選に当る)に頑張ろうと言うことになり幸にバッテリーに変更がないので直ちに新チームを編成して猛練習に移った。その秋の近府県大会にはとうとう準決勝まで勝残った。

この時のベストフォアは北野、八尾、阿倍野、今宮と府立高校が顔を並べた。本校は準決勝に木村投手(元早大主将、現南海投手)の八尾高と対戦−僅かな差(得点は失念したが)で敗れ、北野に敗れた今宮と三位決定戦をやり、2−0で今宮を破り、二十七年春には選抜に北野、八尾両校が出場し本校は選抜優秀校に名を列ねた。

然しこの時に面白い思い出がある。それは当時天高や高津高と大学入試の進学率を競っていた北野が「選抜には出ない。専ら勉強一辺倒で進む。だから出場を辞退する」と言い出したとの噂が伝えられた。連盟のかなり有力な役員さん迄が、私に「三月十日頃迄に北野が正式に辞退すれば、三位校の阿倍野に出て貰う様になるでしょう」と言われた。

松本天満相手に完全試合

サア大変く、選抜だ。甲子園だと色めき立ったが、間もなく北野の同好会や野球部OBの猛列な反対により、北野は選抜辞退を思い止まったと言うことを聞かされ、結局本校の選抜出場は一場の夢と化し去った。でもあの当時の先輩とは、よくその話が出る。懐しくもほほえましい思い出である。

二十七年夏も、宿命的に第四回戦に八尾と当った。

秋と同様に山川、木村の投手戦になり、本校は再び八尾に名を惑きしめた。この年の八尾は甲子園で遂に名投手植村を擁する啻屋高校と優勝を争った。然し啻屋が真紅の大優勝旗を獲得した。

二十八年は夏も秋も三回戦位で終った。だが二十八年には、三十年度の夏の大会に名バッテリーと府下に謳われた松本武司君(現関学選手)と浜口真二君(元南海選手、現丸善石油選手)が一年に入学している。

そして二十八年の夏の大会には天満高校に、若冠一年の松本が登板完投してノーヒット、ノーランノーエラーの完全試合を記録した。二十九年は不振の年で、夏の第一回戦に当時の新興新進校の島上高校に2−0で負けてしまった。既に松本−浜口のバッテリーは二年であったが相当優秀バッテリーと当時噂されていたし、新聞の予想等も問題なく阿倍高のものと書いていた。そこで島上高校は玉粋を期して当日全校応援を繰出した。中モズの三塁側のスタンドは島上の全生徒が埋め、一塁側スタンドには阿倍高の講習をボロボロ駆けつけた有志が約五〇人程、パラパラと坐っていた。阿倍高はまあ応援は三回戦位からと落着いて講習を受けていた訳だ。

それがコテンとまたやられた。敗れた阿倍野よりも勝った島上がビックリして、スタンドが二百十日の突風に揺らく稲穂の様に無茶苦茶に混乱してざわめいていたのを覚えている。それ以来、中モズの一塁側は本校苦戦のジンクスになった。

本校内野陣初回に乱る

三十年はいよいよ松本−浜口の名バッテリーと名手山本明君の遊撃と言う布陣で阿倍野は夏の優勝候補の一角をなすと新聞等で取沙汰された。

果して順調に勝進み、第四回戦に名門で強豪の泉大津を倒してベストエイトに残った。

そして名投手山城を擁し、当時浪商と優勝候補の随一と謳われた興国商業と対戦することになった結局松本−山城の息づまる様な投手戦で興国が一回の表に、一番打者が意表をついて敢行したドラグ・バントに攪乱された内野陣の破綻により与えた一点がとうとう勝敗を決してしまった。

本校を熱戦の末に1−10で破った興国は遂に優勝戦に浪商と対戦した。当時の浪商は谷本、広島両投手に、控手山本八郎、中堅手坂崎、三塁手勝浦のクリーンアップトリオを真夏黄金時代を誇っていた。そして優勝戦は十五回延長の末、浪商が優勝した。

新宮高校の井崎、浪商の坂崎、山本、勝浦も選抜軍がハワイへ遠征した年である。

次いで三十一年本校は投手に川合、岡本、大野の三人を擁し、山根、内原、新野、中田、長沢等の強打陣を有し、前年に劣らない充実した年であった。

この年の夏こそ、優勝を逸したと言われる惜しい年であった。丁度本年のように日生、藤井寺両球場で次々と強豪を激破して(一回戦香里、二回戦市岡、三回戦天王寺)四回戦に宿敵興国商業と顔を合わした。

その年の興国は優勝候補中の随一、本命と言われる強豪チームであった。

この年の浪商は興国の敵でないと言われていた。事実それ程強くなかった。興国の宮城左腕投手は大会一の名投手と言われていた。

その興国と対戦して、三回に本校が長短打四本を集中してアッと言う間に大量五点を得点して宮城をノック・アウトしてしまった。

その日の夕刊各紙の「優勝候補興国敗る」「阿倍野の猛打、興国に圧勝」等の大見出しが、実に印象的だった。

これで一番喜んだのは外ならぬ浪商であった。「よくぞ興国を倒してくれた」と手放しで狂喜する状態であった。

ベスト・エイトに残った本校の対戦相手は当時としては無名の港高校であった。既に新聞は「優勝は阿倍野か清水谷か」という記事をのせていた。

清水谷は当時小宮山投手を有して黄金時代を成していた。

阿倍野が当然港高を破って、準決勝での浪商との対戦が結局優勝を決定するだろ……と言う予想も出た。これで全ナインがコチコチに固くなってしまった。一方無名の港は六尺豊かな一年の久保投手を先発させ、所謂玉砕喰下りの体勢で挑んで来た。結果は苦冠一年の久保の実技の前に、本校は2−0で敗れて再び浪商を喜ばせた「ウルサイ阿倍野も消えた…」

そして準決勝に浪商は前日に十分観戦研究して置いた港を苦もなく攻略して優勝戦に進み清水谷と対戦した。そして巧みな試合運びで殆んどヒットらしいヒットも打たないで敵失に乗じて得た二点を守り通してとうとう甲子園へ出てしまった。

勝敗は決す一、二のエラーで

当日の試合トータルをみると安打数も、奪った三振も清水谷の方が逆に多かった。然しエラーは浪商になく、清水谷に2個記録される。その二つのエラーが夫々失点に結びついて覇権を相手に与えたのであるからエラーはおそろしい。

三十二年の夏は第三回戦にその年の優勝校寝屋川高校に敗れた。スコアは4−0であった。

河合・大野好投強豪興国を倒す

本校は三年の河合、一年の大野両投手が隠命の投球で、当時強高校と言われていた興国の打線を必死に抑え、それでも敵に三点を許したが、とうとう5−3で興国を破ってしまった。

声援むなしく興国商に敗る

然し三十三年の秋の近府県大会には、本校は遂にベストフォアに勝ち残った。

この大会は前にも述べた通り事実上の選抜予選である上に準決勝にさえ勝ては選抜出場権確実と言うので全ナイン大いに意い立ったが、相手は興国商業である。

興国にすれば昨年の雪辱戦である。殆んど両校共全校応援に近い多数が藤井寺のスタンドを埋め声の限り声援し、運手も力の限り戦ったが本校は惜しくも敗れ、昭和二十六年秋以来、二度目の選抜出場のチャンスを逸した。

投手は大野(現伊藤忠石油)岡本(現関学投手)、捕手は原田(現法政選手)であった。

二年連続寝屋川に敗る

三十三年夏は再び第三回戦に寝屋川に敗れた。

然しこの時も本校の強打陣が名投手島崎をノックアウトし、前半リードしたのに、後半にリリーフした赤尾投手に抑えられ、結局寝屋川の追撃に敗れた惜しい一戦であった。然し二年続けて、同じ三回戦に同一校に敗れることは珍らしい。よくよくの因縁であろう。

この年の寝屋川は優勝戦に4−3で浪商に敗れて準優勝校となった。

そしていよいよ本年であるが、本年の夏の大会は余りにも記憶に生々しい。

ただ過去に於て本校が苦杯を喫した寝屋川、興国に雪辱し得たのに昭和二十六年以来の八尾高に雪辱出来ず、しかも優勝を逸したとは全く残念であった。然し本校の全選手は全くよく戦った。

野球技には勿論、体力にも精神力にも十分自信を持ち得たことは今後の本校の野球部の前途に大いに期待を抱かせてくれる。

先輩の努力を無にするな

然し今日のこの野球部の偉大な成長は、過去十年になんなんとする先輩選手の血と汗と涙の歴史の残した教訓と伝統の具現に外ならないと信じている。

第41回 全国高校野球 大阪大会

石川(阿倍野)本塁打放つ

第二回戦　日没コールド・ゲーム

甲子園への出場成らず　意外に振わなかった味方打線

第四十一回全国高校野球大阪大会が7月18日より熱天の藤井寺、日生、中百舌鳥の三球場で熱戦の火ぶたが切られた。昨年よりさらに増えた百二校の参加校は晴の甲子園出場を目ざし昨年以上の激戦となった。その一校として本校も一回戦より、生野、天王寺、園芸を一方的にくだし岸和田とは十八回引分再試合の末一−〇で勝ち、さらに勝運に乗った本校は強豪寝屋川、興国商業を三−〇、一−〇とシャットアウトに倒し、決勝戦へと、駒を進めたが、闘志で戦って来た本校もついに力がつき八尾高校に一−〇と敗れ準優勝となった。しかし甲子園出場の夢は破れ去ったが野球部創立十一年以来始めての事で非常に喜こばしい。

無念！　八尾高の前に遂に力つきた。試合終了後応援団の前に並ぶ選手の顔に光るものが……。

△一回戦(於中百舌鳥)
生野　0000000000
阿倍野　0000002×2
(生)滝口−井沢　22282 1
打安振球失
(阿)保田−小林　21352 0
二塁打−山坂(生)
○…前半生野高校がやや押し気味ではあったが得点には結びつかず滝口、保田両投手の好投で5回まで両チームとも無得点。6回にいたり滝口投手の疲れに乗じた本校は貴重な2点を上げた。
○…この回保田の安打、石川の四球で一、二塁。東野バント失敗の後捕手のパスボールで二、三塁小林スクイズ成功して石川生還、高岡死球の後山口の中前安打で東野生還して計2点を上げた。
○…7回の表終了のさい日没のために2対〇で本校は初戦を飾った。

△二回戦(於中百舌鳥)
阿倍野　0002000013=6
天王寺　0000000000=0
(阿)保田−小林　37851 0
打安振球失
(天)畑山−野口　26283 3
本塁打−石川(阿)
三塁打−小林(阿)神崎(阿)
二塁打−秋岡(阿)保田(阿)
○…大振の本校打線は3回まで左腕畑山投手に手をやいたが、4回一死後小林四球、続く高岡の一塁ゴロを入野が野操にして一、二塁とし秋岡の左越二塁打で2点をたたき出した。調子づいた本校は8回に東野、小林の安打と敵失で1点、9回には本塁打を含む三長打で決定的な3点を上げた。
○…この回本校は神崎が右越大三塁打を放ち、一死後保田のレフト頭上を破ぶる二塁打で1点。続く石川はレフトフェンスを越える二点本塁打を放ち計3点を上げた。
○…保田投手は生野戦同様好投で天王寺打線を散発一安打に抑さえ十六イニング連続二塁ベースを踏せなかった。

△決勝戦(於藤井寺)
八尾　0001000000=1
阿倍野　0000000000=0
(八)久野−岡部　31320 0
(投)(捕)打安振球失
(阿)保田−小林　28152 0
○…初回より久野、保田両投手の投手戦となり予想通り先取点を争う試合となった。結果はチャンスをうまく点に結びつけた八尾高が1対0で本校を破り晴の甲子園へ駒進めた。
○…4回八尾高は二死後真野が三塁犬で生き岡部の右前安打で先取点を入れた。
○…一方本校は4回以後ややせり気味で3回に保田の右前安打一本きりで一年生の久野投手を打ちこむことが出来なかった。

熱戦十八回遂に引分け

△四回戦(於日生)
岸和田　0200000000
阿倍野　0000100010
0000010000=3
(岸)行−吉本　60 10 2 5
下地　打安振球失
(阿)保田−小林　71 6 12 7 2
三塁打−行②(岸)谷口(岸)
二塁打−秋岡(阿)石川(阿)
吉川(阿)
○…昨年この日生球場でにがい経験を持った本校はこの試合を初回より苦しい試合運びとなったが、両チームとも決定打不足で、延長戦に入いり、シーソーゲームをくりひろげた末十八回引分け両試合となった。
○…2回岸和田は連続三長短打とスクイズで2点を先取した、○
○…一方本校は4回一死後神崎の右前安打を足場に保田の右中間安打で神崎還りその後二死満塁とつめよったが決定打が出ず1点にとどまった。その後両チームとも得点権に走者を出しながらと結納得点と連続安打一、三塁と攻めよはますます自信をつけ興国戦でも

保田投手好投

△二回戦(於藤井寺)
園芸　0000000000=0
阿倍野　3000000000×=3
(園)岸上−岡武　30 3 15 2 1
打安振球失
(阿)保田−小林　29 6 7 4 2
二塁打−秋岡(阿)清水(園)
○…1回本校は石川死球の後東野のバンドが内野野打となり、続く小林が送り、高岡三振にたおれた

十五三振を奪う

が、山口が四球を選び二死満塁この後秋岡の左越二塁打で3点をあげた。その後岸上に押さえられて得点なし。
○…一方園芸は2回清水の二塁打を足場に二死、三塁のチャンス8回二死後杉本、奥野の連続安打で、一、三塁と本校を攻めつけた
○…この日の保田は十五三振を奪点権に走者を出しながらと結納得点とも連続安打で1点を上げた。
○…岸和田は5回二死後下池、左

望むスクイズの確実性

△準決勝(於藤井寺)
興国商　0000000000=0
阿倍野　0001000000X=1
(興)堂迫−中峰　32 5 6 0 1
打安振球失
(阿)保田−小林　29 9 7 2 0
二塁打−小林(阿)
○…寝屋川を3対0で破った本校は保田の好投で無得点に押さえた
○…この日の保田は十五三振を奪
始終優勢に戦ったが、スクイズの失敗が目立った。
○…本校は2回一死一、二塁のチャンスをつぶしたが4回先頭の山口左前安打、小林のバントは内野安打となり無死一、二塁。秋岡に送られて二、三塁と進塁した。打者高岡の時スクイズ失敗で山口刺殺されたが中峰の三塁悪投で小林

宿願寝屋川を破る

△準決勝(於日生)
寝屋川　0000000000=0
阿倍野　2000010 0×=3
(寝)赤尾−掃部　31 4 10 2
打安振球失
(阿)保田−小林　29 7 4 4 0
本塁打−小林(阿)
二塁打−山口(阿)石川(阿)
○…昨年この日生球場において、第4回戦でやはり寝屋川に敗退し無念の涙を流したが、その借を貧々さんと全選手闘志わかして体当りした結果がはやくも初回に出現した。
○…この回本校は石川三塁失で生き、東野に送られて二進、二死後小林の右中間を大きく破るランニングホームランで2点を先取した。その後は左腕赤尾投手に押さえられたが6回四球、安打と敵失とで押しとも思われる追加点を入れた。
○…一方寝屋川は3回に無死から池田が中前安打、一死後駆田の右前安打で一、二塁とつめより又、6回には二死後田島、石子の東続左前安打で本校を攻めよったが、後続せずして、保田投手に無得点に押さえられ三塁を踏めなかった

応援団

自然に出る〝ファイト〟

応援団副団長　西野　光彰

第一戦から優勝戦まで全試合が白熱戦であったので応援するのにも非常に熱がはいり試合中の喚き等吹飛ぶぐらいであった。しかし試合が終ると暑さと疲れが一度に出て応援の道具を持つ手に力がはいらないぐらいである。だが選手の事を考えると辛分にも及ばない。だから野球部の為に応援しようとファイトが出てくる。岸和田の延長十八回の時は応援しようとするファイトはあるが声が出ない。それに皆が応援団の通りしてくれないので非常に腹がたった。しかし優勝戦まで応援出来た事は深い思い出になるだろう。

応援団をクラブに？

応援団が軌道に乗り出した現在応援団を一つのクラブとして認めてはどうか。そして本格的に応援の練習をすれば、立派な応援が出来る。毎年大阪大会の前に募集するのではもはや遅すぎる。

ブラスバンドのない寂しさ

毎年気がつくことではあるが、応援のさいにブラスバンドがない事である。太鼓と手拍子だけではどう見ても余りに寂しすぎる。

本年のように決勝迄進んだ時にはなおさらの事である。又応援団及び自治会の方でも決勝戦の時位兄弟同様の住吉高校のブラスバンド部に交渉して友情応援をしてもらいたかった。その点八尾高は山本高のブラスバンドの友情応援があったので非常に羨ましかった。

本校で現在演奏同好会が出来たそうだが、早く器具をそろえ、練習して、応援の時には必ず立派に演奏してほしいものだ。

接戦の末遂に勝利

△四回戦再試合(於日生)
阿倍野　0000000001=1
岸和田　0000000000=0
(阿)保田−小林　31 3 4 2 1
打安振球失
(岸)行−下地　30 3 2 1 2
二塁打−小林(阿)
○…前日同様一点を争う接戦となったが1回本校は二安打一敵失で1点を上げ岸和田に勝った。
○…この9回本校は死後山口の中前安打、続く小林の左前安打を谷口(岸)が後逸する間に山口還り決勝の一点を上げた。
○…岸和田は9回一死後下池、左

感謝

野球特集号を編集するに当って、荒木・山田両先生並びに野球部員各位の絶大な御協力に対し、この紙上をもって深く感謝するとともに厚く御礼申し上げます。

お詫び

新旧選手の横顔中一郡の写真と、大阪大会の思い出中荒柴君の言葉が抜けた点とスポーツ欄が野球部だけに片よってしまい、他の運動クラブの夏季休暇の練習状況並びに他校との成績が記載出来なかった点を紙上をもって深くお詫びいたします。

新聞部スポーツ課

大阪大会の思い出

選手・監督・コーチに聞く

阿倍高の野球部は今後更に大きな躍進をすることであろうが、常にこれら数多くの先輩が苦難にみちた輝やかしい足跡を残したグラウンドをしっかりと踏みしめ、飽くまでも謙虚にしかも真摯な敢斗精神に徹して阿倍高野球部の栄光の金字塔を築いて行ってほしいと願いする次第である。

荒木　信先生

くやし涙を手の甲で拭う者、頭を垂れて唖然とする者など八尾高に敗れた瞬間は全く劇的なものだった。その時の各選手の胸の内はいかばかりであったろうか。終了直後一回戦からの思出いを語ってもらった。

山田　監督兼コーチ

三年生には悪いが学校の方は来年度に期待を持っていた。しかしゲームの途中で調子がよかったので、優勝等は考えないで無欲無欲で一戦一戦を戦っていった。でも八尾に負けるとは思っていなかったもし負けても一対0で、勝てる。浪商念であると思う。それと八尾校の久野投手にひねられた時、いくら好投手とは言え一年生に負けたのは残念だ。

我が部の誇りとするチームワークが優勝戦へ導いた事は非常に心強い。敗れて悔なし。

鈴木一塁手(三年生)

酷暑の中の応援深く感謝します

保田投手(二年生)

運と精神力によって決勝戦まで進出できたが自分の未熟さの為、優勝を逃した。八尾に連安打され点を能取されたのは完敗だ。今後に大いに勉強になった。これからはこれ以上の成績めざしてがんばりたい。

小林捕手(二年生)

東野主将を中心にガッチリとスクラムを組んで必勝の意気高く戦った。そのかいあって第三回戦までシャットアウト勝ち、以下岸和田、寝屋川、興国と強敵を苦戦の末破った。優勝戦は全校あげて応援して下ったが、攻撃力振わず八尾高に敗退したのは残念だ。

来年は是非とも甲子園へ……。

吉川一塁手(二年生)

強いて言うならば甲子園へ出られなかったのが非常に残念である。でも僕はまだ二年で来年があるから。

東野二塁手(三年生)

優勝戦に進出と決まった時は夢でないかと思った。この六戦を振り返って岸和田高戦に逆に優勝戦という雰囲気と連戦の疲れで攻撃力が欠けて敗北したのは残念だ。

神崎三塁手(二年生)

逆に優勝戦という雰囲気と連戦の疲れで攻撃力が欠けて敗北したのは残念だ。

保田「運と精神力で……」

山口遊撃手(二年生)

全国大会予選も我々が予期しなかった決勝戦まで進出したのは来年度に期待を持っていた。しかし残念に思う事は自分がもう少しにまで進出した事は今当っていれば他のナインに迷惑もかけず大部分の試合はもっと楽に勝っていたと思う。

しかし自分としては全力を尽したのだから悔はない。

秋岡右翼手(三年生)

早く言えば甲子園に出場したかった。というのは仲々決勝までは無援して下ったが、攻撃力振わず八尾高に敗退したのは残念だ。

来年は是非とも甲子園へ……。

小川選手(二年生)

阿倍野ピンチ、タイムをかけて勢いよくマウンドに駆け寄る。そこで多少ムッとしたが、話が終り審判に一礼、又ベンチへ駆け足、このもとる少しの間の感じは色々だ思い出しても入場式の緊張らしさは何ともいえない雰囲気であった。その中を悠々と行進することは大きな喜びであった。又球場でのあの歓声は忘れられないものがある。

東田選手(二年生)

△準々決勝(於日生)
寝屋川　0000000000=0
阿倍野　2000010 0×=3
(寝)赤尾−掃部　31 4 10 2
打安振球失
(阿)保田−小林　29 7 4 4 0
本塁打−小林(阿)
二塁打−山口(阿)石川(阿)
○…昨年この日生球場において、第4回戦でやはり寝屋川に敗退し無念の涙を流したが、その借を貧々さんと全選手闘志わかして体当りした結果がはやくも初回に出現した。
○…この回本校は石川三塁失で生き、東野に送られて二進、二死後小林の右中間を大きく破るランニングホームランで2点を先取した。その後は左腕赤尾投手に押さえられたが6回四球、安打と敵失とで押しとも思われる追加点を入れた。
○…一方寝屋川は3回に無死から池田が中前安打、一死後駆田の右前安打で一、二塁とつめより又、6回には二死後田島、石子の東続左前安打で本校を攻めよったが、後続せずして、保田投手に無得点に押さえられ三塁を踏めなかった

藤内選手(二年生)

第一戦でウィニングボールを捕った時ほうれしかった。しかも寝屋川、興国に勝ったので晴の代表になれると思ったが決勝戦で敗れて本当に残念だ。来年は最後の年にしたい。

「失敗は誰にでもある」

神崎

失敗は誰にでもある。たゞ僕の事は自分として最高の幸せで何も思い残す事はない。あとは来年もがんばれと頼むばかりだ。それにしてもやはり残念無念！

高岡中堅手(三年生)

夢に迄見た甲子園を前に無念にも八尾高に屈したが、ここまでくれば本望だ。自分は対岸和田の勝利の感激は忘れる事はないだろう

秋岡右翼手(三年生)

早く言えば甲子園に出場したかった。というのは仲々決勝までは無援して下ったが、攻撃力振わず八尾高に敗退したのは残念だ。

来年は是非とも甲子園へ……。

小川選手(二年生)

阿倍野ピンチ、タイムをかけて勢いよくマウンドに駆け寄る。そこで多少ムッとしたが、話が終り審判に一礼、又ベンチへ駆け足、このもとる少しの間の感じは色々だ

東田選手(二年生)

思い出しても入場式の緊張らしさは何ともいえない雰囲気であった。その中を悠々と行進することは大きな喜びであった。又球場でのあの歓声は忘れられないものがある。

石川左翼手(三年生)

自分は野球を始めて六年苦しいにがい思い出も数多くあったが、その最後に決勝戦まで進出出来たのだ。

「前例がない」「はずかしいので…」

本校の野球部創立以来、十一年たった今日、夏の全国高校野球大阪予選大会の前になると毎年応援団が結成されるが、一度も顔を出さないのが女生徒の応援団員である。ところが気がつくのは、応援の際よく声を出すのは男子よりもむしろ女子の方である。静かに観戦している際五、六人の女生徒が声を合せて〝阿倍高ファイト！〟と叫ぶ声は観覧席のすみずみまでよく通る。

またこれだけの度胸があるならば、全生徒を指揮するだけの力がある事と想像される。又他校において女子応援団が指揮をしているのに、本校に限って出来ないという事はありえないと思う。ただ本校には内弁慶とでもいうのか先頭に立つ人が見当らないのだ。来年の夏の大会には是非とも女子応援団が出る事を願いたい。

最後に応援団を敬遠する理由を女生徒に尋ねて見た。

【Aさんの場合】
男子の方に〝ヤジ〟を浴びせられるのはかまわないけれど、やっぱりはずかしいわ。又以前にそういう人が出ていたならばやりますけど…。

【Bさんの場合】
声が小さい方なので、球場の隅々まで届かないので……。でもはずかしいからいやです。

【Cさんの場合】
甲子園に出た場合には、やるという人もいたが、前例がないので……。

【Dさんの場合】
団体でだったらやりたいです。

以上は女生徒の声であったが、次に男性の声を聞いてみよう。

やはり応援団員は女生徒の方がいいです。僕らもその方が応援する手にも力が入ります。来年からは是非女性リーダーが出てほしい

何故出ぬ女子応援団

大阪大会の途中で一、二の新聞に本校に対する非難文が書かれた一つはチャンスの際に三振した選手がバットとヘルメットを投げつけた事で、もう一つは応援する生徒が、相手の選手、応援団に余りにもきたない〝ヤジ〟を投げつけた事だ。前者の方は、その人自身が今後自覚すればことすむが、後者の方は一人では夕メ。全員が協力しなければならない。どうして〝ヤジ〟が飛び出すのか。

今後この様なキタナイ〝ヤジ〟は止めようではないか。又〝ヤジ〟を言う者が出たら、近所の者が注意するようにしよう。そして生徒と応援団が一丸となって阿倍高応援団を今よりもさらに立派な応援団にしよう。

止めよう きたない〝ヤジ〟

生還

第二戦石川選手は畑山君よりレフトオーバーのホームランを放って、僚友秋岡の二塁打で高岡生還【写真上】

対天王寺戦四回一死一、二塁に秋岡の二塁打で高岡生還【写真下】

攻守は大阪でAクラス
少し不安な外野守備

第四十一回全国高校野球大会も終り本校野球部にも新メンバーが出きた。三年生の東野二塁手（前主将）、鈴木一塁手（前副将）、石川左堅手、高岡中堅手がしりぞきその後に夏の大会で終始ベンチに入っていた、小川二塁手、藤内左堅手、東田中堅手（以上二年）荒柴左堅手（一年）が入いり他のポジションには旧メンバーの選手が入いった。又新主将には小林補手、副将に吉川右堅手がなり新チームをリードして行く事になった。三年生のいなくなった本校野球部は守備及び打撃面とも大阪ではAクラスに入いるが外野手に少し不安な感がすると山田先生（監督兼コーチ）が言っておられる。旧メンバーにくらべて、内野守備に多少変動があるが、各選手は自分のポジションに早く馴れ、安定した守備が出来るよう練習に励んでいる。

新旧選手の横顔

保田勲（二年五組）

守備＝投手、投打＝右投、右打、本校随一の頭脳的投手でコントロールが非常によくなり肩口からホップするシュートには い力がある。対星光戦（オープン戦）でも相手高の監督がシュートには絶対に手を出すなと星光ナインに言っていたくらい。又インコース、アウトコースの配球にすぐれ、打者をよくほんろうさせる。本人もこの夏の大会で自信をつけ連投するだけの体力も出来ている来年度は三年で最高学年でもあるから本人も本年度よりいっそう努力すると言っている。

小林秀一（二年五組）

守備＝捕手、投打＝右投、右打、本年度の秋より東野選手の後をついで主将となり、新たな決心のもとに全ナインをひっぱり、よりいっそうりっぱな野球部を築くことであろう。又長打力の持ち主で夏の大会、オープン戦でも再々長打を飛ばしている。守備でもリードが非常に巧く保田投手をよく助けて呼吸もぴったりと合っている。送球も強肩で確実性があり安心出来る。

神崎来代臣（二年五組）

守備＝一塁手、投打＝右投・右打夏の大会まではサードを守っていたが不安定で又、本人自身も自信がなく思わぬエラーをたびたびしたため、なお自信をなくした。一度セカンドを守ったが以前は投手であったのでリリーフ投手として再度マウンドに立つ事になったため一塁を守る。打撃面においても今はスランプに落いり守備面同様自身をなくしているが、山田コーチの指導のもとで本人も研究を続けているので、以前のあたりにもどるのもまじかである。

小川誠（二年五組）

守備＝三塁手、投打＝右投、右打以前は投手であったが練習中肩をこわし夏の大会ではライトを守った。新メンバーより神崎選手がファーストに回わったのでサードを守る事になった。感が非常によく又守備範囲も広い。送球は投手時代のい力がものをいってスピードに確実性がある。打力は小林選手同様長打力の持ち主でチャンスにはかなり強く、夏の大会においてもたびたび殊勲打をはなっているが、カウントが追いこまれると精神的にもろさがある。ポジションに馴れる事がまず第一。

秋岡公（二年五組）

守備範囲も広く捕球も確実性があるが（残念な事に送球にすこし難があるが）東野選手の指導でますます確実性のある選手となるだろう。打撃面ではややせいさいを欠くが彼には体力と力があるので努力しだいでりっぱな選手になるだろう。

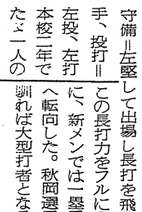
山口建昭（二年五組）

守備＝左堅手、投打＝左投、左打本校二年でたった一人の左投左打で小がらながらつねに九回の守備にたびたび秋岡選手と変って守った。守備面では外野手随一で守備範囲が広くて捕球もガッチりとり安心して見ていられる。打力にやや難があり現在研究中。

藤内忠憲（二年二組）

守備＝遊撃手、投打＝右投、右打遊撃手として本校のかなめである。ボールのさばき、送球のよさは昨年度の森選手に劣らないくらい。又リリーフ投手として神崎選手とともに保田投手を助けていく。球質は保田投手と同じ（保田投手談）である。又保田投手と同型であるから、はたしてリリーフとして通用するかと疑問。星光戦（オープン戦）では四回なげきったがヒットというヒットは打れていない打力は長打力がある。

東田雅勝（二年一組）



守備＝中堅手、投打＝右投、右打一年の中期より入部して約一年夏の大会では終始ベンチに居り相手の守備をよく観察してよき面を自分のものにするという熱心者。新メンバーでは中堅手として活躍することだろう。現在腰の肉ばなれで練習を休みネット裏で本校の練習ぶりを観戦。守備面では本校内野陣にくらべてやや手うすな外野にとって藤内選手とともに助けの神。打力面では長打力はないがしぶといバッティングをする。

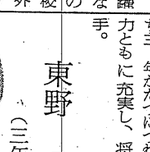
吉川潔（二年五組）

守備＝右堅手、投打＝右投、右打鈴木副将の後を継いで新メンより小林主将を助ける事になった。本校きってのファイトの持ち主でナインを引きしめ元気づけている。この夏の大会ではたびたび代打と

荒柴宥（一年二組）

守備は本名のごとく老ふ（柴）のごとく老上を荒々しくどこまでもボールにくいついていくというはりきりボーイ。又打力においてもストライクボールならばいかなるボールにでもくいついていく。星光戦でも満塁に大三塁打を打ちこの長打力をフルにのばせるように、新メンでは一塁手から右堅手へ転向した。秋岡選手同様守備に馴れれば大型打者となるであろう。三点をたゞき出したという上級生顔負けの小がらながら長打力の持ち主。年がたつにつれて守備、打力ともに充実し、将来有望な選手。

東野公一（三年五組）

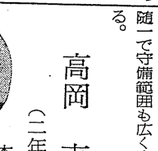


昨年度夏の大会大阪府予選で二年生としてたった上級生を正二塁手でレギュラーとして出場、本年度は経験充分で終始落ちつきはらった安定した守備だった。又優秀二塁手に入いった名選手。打力面においては本年はややせいさいを欠いたが、本来はシャープなバッティングであるが、本人独特のドラグバンドが成功した。レギラー時代主将をつとめ本校野球の発展のためによく働いた。現在O・Bとなった彼は小川二塁手の指導手。

石川省治（三年五組）

昨年度夏の大阪大会で東野選手とともにたびたびピンチヒッターとして出場。本年度も中百舌鳥球場でホームランをかっとばした長打力の持ち主で言は一発屋。守備面では正左堅手として二年間大かつやく。左堅手としては本校随一で守備範囲も広く安定性がある。

高岡克彦（二年五組）



本年度夏の大阪大会で不振をたとった彼の真理は三年生であるという意志が強すぎた事と自分の長打力におぼれあまりにも大振で一発をねらいすぎた（荒木先生談）、本人の打撃は長打力で近畿大会で浪商戦での大三塁打、西宮（オープン戦）戦で、大かつやくした。守備範囲は広く正中堅手として好名である。打力面でもうすこしねばりが出て来たら大学進学した時はよい選手となるだろう。

鈴木正紀（三年四組）

旧メンバーの副将で内部の運営面での予算の使いみち、他高との連絡にかつやくし、人間的に苦心した又吉川副将に引き継まで部内野球の練習に皆ほど打ちこめなかった。又夏の大会においてたびたび大事な時にエラーをやり自ら二塁をしりぞき吉川と変るという精神的な弱さがある。又勝っても負けても皆のように心から喜べないたちで終始考えている。現在大学進学のため猛勉強中。

確実に前でミートする
変化球及び速球に

野球部主将　小林秀一

夏の大阪大会に連優勝を遂げた野球部では、荒木、山田両先生を始め小林新主将以下十名の一行が八月二十三日から三日間、四国へ第四回目の遠征試合に出発した。今回の目的は新メンバーなので対外試合によって試合経験、試合度胸を身につけ、さらに強力なチームにすることにある。

過去の三回の成績は第三回目の岐阜高に勝ったのみで、あとは本校の敗戦に終っている。本校の敗因に①新チームで始めての者ばかりで②試合経験がなく③三週間位しか練習をしていない等があげられる。

しかし今回は三年生の主力が退

四国遠征交歓試合で強力チームに

夏の大阪大会に連優勝を遂げた野球部では、荒木、山田両先生を始め小林新主将以下十名の一行が八月二十三日から三日間、四国へ第四回目の遠征試合に出発した。今回の目的は新メンバーなので対外試合によって試合経験、試合度胸を身につけ、さらに強力なチームにすることにある。

過去の三回の成績は第三回目の岐阜高に勝ったのみで、あとは本校の敗戦に終っている。本校の敗因に①新チームで始めての者ばかりで②試合経験がなく③三週間位しか練習をしていない等があげられる。

しかし今回は三年生の主力が退

我々の大会は勝負のみにこだわりたくないと思います。真の高校生らしくほほえましい心で、スポーツマンシップにのっとって、輝かしい正々堂々たる試合をしたいものと考えております。

幸に八月二十三日より四国へ対外試合に出かけます。そこで大いに腕を磨き、来るべき近畿府県大会には、持っている力をふるに発揮して、浪商高を破り、なんとしてでも晴の甲子園へ出場するつもりであります。

打力の甘さも、そこは不ポの精神とガッチりとした先輩の練習で、荒木山プ一家がアメリカに渡って、苦難に耐えて成功するまでを描いている。主演は、むろん前作と同じルート・ロイベリック、この母にひきいられた七人の子供達がアメリカ各地を讃美歌を歌って歩くのだが、さっぱり客に受けない。ついには興行師にも見捨てられ、ニューヨークの裏町で無文の身の上となるがここで子供達が偶然に歌ったアメリカ民謡「オールド・ブラックジョー」が思いがけず人気をえ、隣人達の好意に見守られて運をきり開いていくという物語。前編の苦難が、ナチスによる祖国の滅亡という外的な圧迫とすれば この続編は、合唱団そのものの財政的苦況を中心にした映画である又、前編では邦題名になっているシューベルトの「菩提樹」の歌では、アメリカの民謡詩人フォスターの「オ・スザンナ」や「オールド・ブラックジョー」それからトラブ一家の故郷の歌ヨハン・シュトラウスの「ウイーンの森の物語」などのポピュラーな歌が思わず微笑をさそう。大体続編というものは、よく二番煎じの感じがするものである。ところが、この続編はそうではない。それは何よりもこれがその原題名にもある様にアメリカでの話にしてあることと今度はユーモアを多く盛ったことに特色がある。

前編の様に主人公達の環境の変化がドラマチックでないだけに、詳細なところに力を入れ、それで内容を豊かにしていると云える。この映画には数多くのスタルジアが盛られている。みんながバーで食事をするときも、カトリック教徒である彼らはお祈りをすることを忘れないが、このシーンは独り異国に家族だけで亡命し、しかも明日の食料にも危い様な状態に追い込まれても、なお感謝すべき幸福を彼らの互の間に自覚していることを感じさせたが、ニューヨークの裏町に居を定めたものの、ついに経済的にどん底になったことを告白し、マリアが夫のゲオルグと、高いところから大都会の冷やかさを感じつつ抱擁するシーンには異国人の望郷の心がしのばれ見ていて実にさみしい感じがする夜の街の風景も大へん美しい。この映画は、その控え目な地味な色

映画評
続菩提樹
原名 Die Trapp-Familie in Amerika
監督 ボルフガンク・リーベンアイナー

前編にも優る映画
美しいコーラス

この映画は、オーストリアで修道女で不思議な運命からトラップ男爵夫人となり、若くして七人の子供の母親となったマリア・アウグスト（アメリカに現存）が、誠意と愛情を持ってつくったトラップ合唱団の活躍を描いたもので、前編の続編である。今会はこのトラップ一家がアメリカに渡って、苦難に耐えて成功するまでを描いている。主演は、むろん前作と同じルート・ロイベリック、この母にひきいられた七人の子供達がアメリカ各地を讃美歌を歌って歩くのだが、さっぱり客に受けない。ついには興行師にも見捨てられ、ニューヨークの裏町で無文の身の上となるがここで子供達が偶然に歌ったアメリカ民謡「オールド・ブラックジョー」が思いがけず人気をえ、隣人達の好意に見守られて運をきり開いていくという物語。前編の苦難が、ナチスによる祖国の滅亡という外的な圧迫とすれば この続編は、合唱団そのものの財政的苦況を中心にした映画である又、前編では邦題名になっているシューベルトの「菩提樹」の歌では、アメリカの民謡詩人フォスターの「オ・スザンナ」や「オールド・ブラックジョー」それからトラブ一家の故郷の歌ヨハン・シュトラウスの「ウイーンの森の物語」などのポピュラーな歌が思わず微笑をさそう。大体続編というものは、よく二番煎じの感じがするものである。ところが、この続編はそうではない。それは何よりもこれがその原題名にもある様にアメリカでの話にしてあることと今度はユーモアを多く盛ったことに特色がある。

前編の様に主人公達の環境の変化がドラマチックでないだけに、詳細なところに力を入れ、それで内容を豊かにしていると云える。この映画には数多くのスタルジアが盛られている。みんながバーで食事をするときも、カトリック教徒である彼らはお祈りをすることを忘れないが、このシーンは独り異国に家族だけで亡命し、しかも明日の食料にも危い様な状態に追い込まれても、なお感謝すべき幸福を彼らの互の間に自覚していることを感じさせたが、ニューヨークの裏町に居を定めたものの、ついに経済的にどん底になったことを告白し、マリアが夫のゲオルグと、高いところから大都会の冷やかさを感じつつ抱擁するシーンには異国人の望郷の心がしのばれ見ていて実にさみしい感じがする夜の街の風景も大へん美しい。この映画は、その控え目な地味な色

←ラスト・シーン、恩人への感謝のために歌うトラップ一家＝中央がルート・ロイベリック。

次号で百号

初刊「暁」より現在の新聞に到るまで99号に達し、十月発行の新聞をもって一〇〇号を迎えることになった。新聞部ではそれを記念してプランケット六ページの新聞を発行する予定です。

特集記事は、
記念写真コンテスト
歴代部長の座談会（苦労話・楽しかった事）
アンケート
▼阿倍高生の実態。（ルポ）
▼先生＝生徒・父兄の関係
▼高校阿倍野新聞について の批判等
▼読書率の高低に見る。
▼映画・演劇について。
▼その他。
コース制の是非
各クラブを探る
・百に関する十一章。（活動面・資金面等）
以上で百号特集は終
文化祭
文化祭の有無。各部の準備状態。準備の深夜化（？）をどうする。等
体育祭
▼写真特集等。
▼トピックス。
▼仮装行列をめぐって。
▼クラス対抗等
▼就職戦線中間白書
▼各企業会社訪問
▼合格者先輩座談会
▼進学希望者、受験先内訳
▼各大学先輩訪問
▼昨年度の進学率の反省
▼学習をめぐって
▼大学生活はまた楽し

病床訪問記
川村先生御入院
病名は胃かいよう

国語科教諭川村先生は15日夜疲労により胃潰瘍を起され同日豊津診療所に入院された。23日我々が御見舞に伺った時には先生は少し元気がなくやせて、スマートになられたようお見受けしたが、それでも常に変らぬあの微笑を浮べて以下の一問一答に御答えして下さった。

現在の病状はどうなんですか

きのう迄は面会も出来なかったんやけど。今日から面会も出来るようになって経過は上々。だけどウミによって胸膜炎を併発してな。

病気が起つた時の状態は

ウン。15日の午前一時頃急に胃の当りがいたなってな。あんないたかったん知らんわ。初めは盲腸かと思って同日の七時から手術をしてもうたんや。ところが、盲腸には何の異常もない。ついでに盲腸切り取ったけどね そこで麻酔のきいていない腹の上部をシヨキンヨキとさらに切って行って、幽門に穴のあるのを見つけ、胃の⅔を切り取ってしまったんや。

いつ頃学校へは

大体一ケ月で退院、二、三ケ月静養。学校へは今年一ぱいは行かれへんかな。だけど体育祭、文化祭にはちょっと行きたいし他に続・菩提樹の話など先生のお母さんも交えて楽しく話し合った最後に生徒の諸君に対して御見舞に来てほしいと言っておられた。（豊津診療所は阪急千里山線豊津下車、駅の近くだから、駅員さんにでも聞けばすぐわかる）

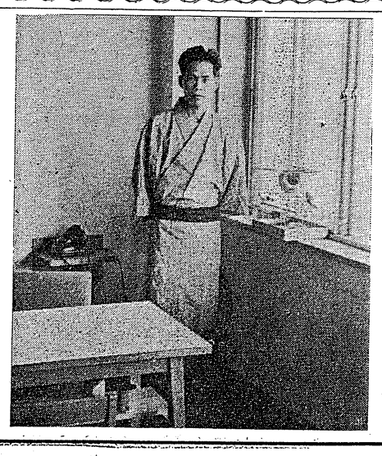
団ちんの川村先生御一家（写真向つて後列左端がミ六チヤンミ）（発病5時間前に撮影）

百田先生御見舞記
順調な御快復の笑顔
退屈しのぎに〝トトカルチョ〟も

太陽の照りつける昼下りに、四月より御病気で学校を休まれ伊丹の近畿中央病院に御入院されている百田先生を御見舞した。

まだ面会時間には少し時間があったので屋上に上る。この病院は阪神間にあって、周囲一帯は緑の田園。近くに六甲山、甲山が見渡せ なかなか空気が良く環境の良い場所に建てられている。やがて面会時間が近づいた。ところが、看護婦からの連絡で御病人のはずの百田先生がニコニコしながら屋上まで逆に迎えに出てこられたので一同ビックリ。一寸拝見したところ四月の頃と全然変っておられない。変った所といえば、少し無精ヒゲがはえている程度。皮膚の色も浅黒いくらいで、眼には以前と同じ力が感じられる。一通りの挨拶をすませて階下の面会室に通された。

面会室にはテーブルが一個、その上に碁や将棋の盤、隅の方に書籍、電話が置かれ、窓際には小鳥が一羽楽しげにさえずっていた。先生の方から話しかけられた「野球残念やったね」「ハア八尾高に負けました」「保田って投手はなかなかいいね」「大阪商一でしょ。八試合一人で投げぬいたのだから」「ショートの山口もいいね。秋岡などは背があるから良く打つだろう」「打てば二塁打ですね。この秋の大会に勝てば来年の春に選抜されるでしょう。保田君以下主力が二年生ですから」「是非ともそうねがいたいね」とまあこういった調子で色々な事を聞かれ、また話される。やはり学校の事が気になられるのだろう。療養生活は退屈らしい。笑いながら扱露して下さった最近のお楽しみは〝トトカルチョ〟だそうである。全国高校野球の優勝校と各試合の勝者（○対○で△△高の勝ってズバリ当てなければならない）を当てるのである。先生は八尾と滝川の一戦を〝一対○で八尾〟とかけられたそうである。（これには一種のコツがあって確率だけでなく賞金の配当率も考えなければならないそうだ。やはり数学の先生だけあってトとの道はお手のものだ）。それに碁が強くなられと。まだまだ話はつきなかったが、先生の病室を案内していただく。つい立てで明るく大きい病室が区切られ、ロッカーの上には食事他万事OKといわんばかりに何でも揃っている。先生は、ッドの書見器には読みかけの物理学のむつかしい本が置かれていた。皆によく見えるところに先程の〝トトカルチョ〟の表がはってあり同室の人々の名がいっぱいに記入してあった。この病院は先生のための病院なのでこの室へ患者もみな先生だそうである。先生方がこうして次々と病気に倒れられるという現実は教育という仕事が我々の考えているよりもずっと重い労働であることをはっきり示しているように思われた。余り長居をすると先生のお体に悪いのでおいとまする事にする。先生は玄関まで我々を送って下さった。一日も早く先生が教壇に帰ってこられ、あのお元気な姿を再び見せて下さる事を祈りながら駅に向った。



日ざしのよい面会室での一時。元気なお姿の百田先生

春の選抜野球大会大阪代表二校は……
阿倍野？浪商高？にもう一校
春の選抜を決める近畿府県大会
初戦強豪浪商高
五分五分で戦える

山田コーチ談

夏の大阪大会では、決勝戦で惜しくも八尾高に敗れ、甲子園への夢は敗れたが、来年の春に行なわれる選抜野球には大阪代表として甲子園へ行ける可能性が大である。

春の選抜野球大阪代表二校を決定する近畿府県大会大阪予選（決勝戦に出場した二校が代表）が、来る九月初めに開催される。

本校の第一回戦の相手校は、夏の大会では第一回戦で早くも姿を消したが、伝統ある浪商高で、九月五日午後より鐘紡グランドにおいて行なわれる。

本校に小林新主将以下新メンバーが出来、徳島へも遠征に出かけ腕を磨いて来た。現在主力が二年生であり、チーム・ワークが非常に取れている。

大阪大会で活躍した保田君も健在で、リリーフに山口・神崎両君を持ち、内野でも小林・神崎・小川・秋岡・山口は完璧の内野陣で外野は吉川、藤内、荒柴でしめる打撃の方も一番から七番までムラなく打つので、安心だ。この布陣ならば守備力、攻撃力とも大阪Aクラスの先頭を行くだろう。

一方の浪商高も新メンバーでたち向ってくるだろう。そして昔から〝阿倍野高はクセモノダ〟と言われているので慎重に攻めるだろう。

じかしこの春には浪商高に勝っているので、心強い。

一ここで近畿府県大会の浪商戦、大阪代表について山田・荒木両先生に聞いてまとめたものを記載しておこう。

阿倍高の野球部創立以来、最強のチームといえる。夏の大会で八尾高に敗れたが、敗れようとは思わなかった。この夏の大会に強かったチームは熱戦になったから言うのではないが岸和田寝屋川、興国、それにPLだ。皮肉なものでこの強い順番に当ってしまったが……。

今度の浪商高との一戦は五分五分に戦える。浪商戦に勝っては力づいて、決戦勝までいけるだろう。そしていえることは、もし本校が浪商高に勝ては、本校ともう一校、負ければ浪商高ともう一校の二校が晴の甲子園行きとなるでしょう。

是非、浪商高戦に勝って、甲子園に出場してもらいたいものである。

阿倍野高野球部育ての親
山田芳雄

阿倍校野球部創立以来最強のチームでしょう。主力が二年生で非常にチームワークもとれている大阪ではAクラスです。

今日の野球部を築きあげたのは、指導のうまさもあるが、忍耐強さと真剣になって語られる。これ程、また高校野球というものに愛情をもっておられるのだ。

こんない先生に野球部の監督書き、冗談で話している事を本気で記事にする、又記録もちょっと正確につけてほしい。悪い面ばかり戒せず、いい面ものせてやってほしい。

語られる程だ。短打主義者なのに大振りの傾向はあるのはおかしいが…。これは誉殺糸り来られないので選手は自習の形になり、自然大振になる。しかし、またこの大振りをうまく使っていかれる。まことに立派な先生です。阿倍高野球部になくてはならい存在の人です」

（今日もベンチにすわって野球部員の練習振りを真剣に見ておられる）

クローズアップ

「今年の野球部は阿倍高創立以来最強のチームとしてしょっている。天下茶屋中学の教諭の御親戚の者に皆阿倍野女学校の卒業。もちろん良様もそうである。

夏は八尾高に敗れた。

が、春の選抜には甲子園へ行きますよ」と元気に今日もグランドのベンチに腰を下して野球部員を指導されている山田先生は始め本校のソフト部の監督をしておられたが、ソフト部が全国優勝を遂げたので、監督をやめられたが、卒業した松本（関学）浜口（丸善石油）山本（同学）らの熱心な懇請で野球部の監督になられた。

今年で丁度五年目になる。先生は優勝、またはよい成績を収めている。本校でも今年を最高に近年は毎年ベスト4～8に入っている。

新聞でも見たように、先生は短打主義者である。しかし自頃先生のおられない時には、選手は自分自身で打撃練習をして大振りになってしまう。先生の主義と逆になるからだ。先生はそのものズバリ

阿倍高野球部育ての親

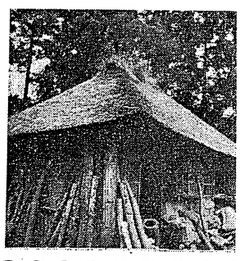
山田芳雄

木地屋の生活 ＝その四＝
山小屋入り

旧十月十五日の山の神祭が終ると、遠刈田という木地部落のみな人々は柄杓山にある山小屋には準備で忙しくなる。鋸を研いだり、柾切りを磨いたり、柄杓を作る柄杓板を取る柾矢を桑の木で削ったり色々と準備される。やがて山の天候をはかって、山入用材を選び出掛ける。まず山をねり歩き、木の節を見るために柾見と称して、柾切で木の幹を削りとってゆる。奥山に、柾切りの音はこだまして、山に生活するものが味いうる。

仕合せを沁々と感ずる秋の日の釣瓶落しにくれる頃、スカリの中に鋸、御矢、弁当など一杯収めて、家路につく。こうした山小屋が建てられ、雪に埋れた小屋で、正月用の柄杓や楽しいお正月を迎えるのであるこんな生活も明治三十五年頃まで続いたようであるが、その後は山小屋入りもなくなって、山で木取りした材料は家に運搬して、家で仕事をやるようになり、山稼ぎ姿の新地の木地屋生活も跡を絶えて終った。

森田宏三



特集

虎の巻の実態を探る

第2回新聞部アンケート

日頃の諸君の愛読書である虎の巻の実態を探ろうとこの特集を編集した。虎の巻の呼び方も数百年の伝統を誇っているし自習書は学生なら誰れでも一度は手にした事がある程普及している。それで先日諸君にアンケートした訳である。結果を見ると意外に三年生諸君が虎を持っている。語学系統は日頃勉強せずテスト前に暗記するという理由から持っている人が多い。グラフを見て驚くのは一年生が数学のトラを持っていない事である。実は教科書が初版で虎がまだ出来いてないらしい。二年生の古文も同様である。とに角、アンケート実施日が悪かったにもかかわらず提出率82%とは大成功阿倍高生の関心の程がうかがえた。虎の歴史、大百科辞典をヒモトイテも載っていない。そこで日本大国語辞典、言林広辞etcの辞典を調べてやっとリクトウサンリャクにありつきました。例によって、例の如く、貧弱なモノですが、残暑がぶり返したと思って読んで下さい。

虎の巻所有者　全校生の85%強　生徒一人当り1.4冊の勘定

アンケートの結果を見ると「トラの巻」の所持者は七百二十五名で全校生徒の八十五%以上が持っていることになる。特に一年生より二年生、二年生より三年生と所持者の数が増加しているが、これは学年が進むにつれ要求される水準に追いつきにくくなる者が増えることを示すものであろうか。全校の「トラの巻」の数を数えると一千五百十一冊で全校生徒一人当り一・四冊、所持者は一人当り二冊余りの割合になる。千五百十一冊の内訳を科目別に見ると、英訳が最高であるが、三年では漢文が英訳をぐんと離しているその漢文が英訳を除くと唯一の三百冊代で他に大きく差をつけ英訳と共にとびぬけて多い。その漢文も半分以上が三年生で占められているが、これは一、二年に比べて三年になると相当むずかしくなる為であろうか。英語、漢文に次ぐのは、今回では数学であるが、これは一年生に「トラの巻」がないのでこのような結果に成ったものと思われ、二学年ではこれほどの数を示めしているので、一年生に「トラの巻」があったならば三百代にはなっていただろう。数学の次に総合、英作と続くが、数学を除けば、大体順当な順位だろう。次に学年別に見ると二年生はまず平均値で三分の一程度であるが、一年生と三年生解答の誤りをなくせ」「誤答が多てみると所持者の二六・六%が自費で買い、三一・三%が家庭に頼っているのは全学年で三年生が一番多い。ここで「トラの巻」を使用したことによって受けた影響を見ると、良いというのが所持者の二〇で悪影響を受けるというのは一八、四でこの中には「さほど辟がつく」というのがかなりあった。この数値から見るとまずまず「トラの巻」は毒にも薬にもならないというところ。

最後に全校生徒に「トラの巻」があることについて意見を見たところ「賛成」が七五・六%、「反対」僅か六・五%で「トラの巻」はあって欲しいという意見が圧倒的であった。いくら高くとも、いくら紙が悪くともやはり「トラの巻」は生徒にとっては、なくてはならない存在なのである。尚、教科書は紙が免税で厚さに制限があり、多量生産が出来るのに対して虎はその全く逆なので値段が高くなるそうだ。右念のため、例年、地理研究部主催で行なっている夏期旅行としてこの夏は長野県戸隠高原へ出かけた。

八月三日午後九時五十五分に大阪駅西乗車口に集合し、十時三分発の列車に乗車して京都へ行き、京都で乗り変え名古屋に四日の午前四時十分に到着したそれから中央本線に乗り変え、五時四十分名古屋発長野行各停に乗車した。八時間程汽車にゆられて午後一時二十八分に長野駅に到着した。駅前からすぐバス（川中島観光バス）に乗った信濃路の家々はバスが進むにつれてその特色を表わしてくる。標高が次第に高くなるにつれて影観開け、北アルプスが見え、いよいよ高原の気分が漂くなる宝光社を過ぎ正面戸隠山が見え一時間余りで中社に着いた。中社は、天八意思兼命（あめのやごころおもいかねのみこと）を祭る神宮の部落である。お宮かお寺にみた家は、柱が太く、屋根が厚い。中社は米も取れる部落で、出来るのは「そば」と「竹細工」だけだ。竹細工は美術工芸品が少く、ほとんど泉庭用品である。

私達は、宿に着くとすぐ入浴をすませた。海抜一千有メートルで気温が底く、空気もすんでいてさっぱりした気持だった。夕食後は、各々、みやげ物を買ったり、高原を散歩したりして自由に時を過し、九時に床についた。あくる日は五時に起きた。気温は十九度で寒いくらいで、洗面をすませ各々中社参出をすませた。

朝食後6時にバスに乗り馬場まで歩いてバスをつかまえた。

（地理研究部　夏の戸隠高原を行く）

すくし、皮から繊維を取り出すのである。中味は、お盆のたき火に使われるため、多くさん町へ出されていた。また、たばこも栽培されており、家々には多くさんのたばこの葉が乾されていた。十一時に再びバスに乗って奥社に向った。奥社の鳥居の隠で拳んだ事、楽しかった事を振り返って大阪への帰途についた。

（部長記）

小鳥の鳴く声、神さびた老杉、戸隠最全盛期に三千坊と謂われた吉の坊の名残りの苔むした石垣の跡など二キロの道を登って奥社に至った。そこで昼食をすませ帰りは地図を見ながら、白樺の林や、草原をぶらぶらと宿に向った。さて六日、午前九時にバスに乗り、戸隠を後に野尻湖へ向った。途中柏原で下車し俳人小林一茶の旧跡により、一茶が最期の息を引き取ったといわれる工倉を見、一茶の子孫のおじいさんから一茶についていろいろの話を伺った。昼近く野尻に着いた。昼食をすませ一時間半余り遊んで柏原駅にもどった。一時三十六分発の汽車に乗った。直江津で乗り変えるとすぐ飯本浩が見えた。三日間の戸隠で拳んだ事、楽しかった事を振り返って大阪への帰途についた。

（部長記）

虎の巻の歴史

虎の巻の歴史は大変古く、今を去る事二千数百年昔、漢の国が中国全土を統一する少し前、そう、鴻門の会の10年昔、張良と云う若者が居た。彼は秦の始皇帝暗殺事件に失敗し江蘇省の下邳という町に一時、潜んで居った。ある日、下邳の町を散歩して、とある橋にさしかかった時、粗末な衣服をまとった老人とすれ違った。老人はチラリと張良の顔に目を走らせ、はいていた沓（くつ）を橋の下に落し、「若いの、あれを取って来い」とあごでしゃくった。ムッとしたものの相手は老人なので云われるまま黙って取って来た。「はかせろ」今度は足をつき出し大威張りである。どうせ取って来たついでだと思いはかせてやった。老人は、微かな笑みを残して、トボトボ数十米行ったが又、省（がこの俺だ）授けられた書物を手にして泡然としている張良を残して去って行った。やがて朝寄りと約束して遅れるとは何事じゃ。五日後、又出直して来い」と散々叱られた。

張良仙人より虎を授く

次は鶏鳴と共に行ったのだが前回と同じ結果であったので、さらに五日たってヨーシとばかり真夜中に出掛た。しばらく待っていると笑顔でやって来て「そうそうじゃなくては駄目なのじゃ、では、約束通り指導してやろうこの書物だが、これを読破すれば王者の師になれる。ウム、機会は10年後に来る。13年たてばきっとお前はまた俺に逢うじゃろ。済北の穀城山（山東省　阿県　北）の麓にある黄石（秘伝書、奥儀書の意味に用いられた模様。自習書の意味になる）を見つけ出し大切に持ち帰って家宝にして祭り、彼の死と共に穴にいれよ。」と云う書物であった。彼は奇異の感に打たれて、その書に目夜読みふけり遂には暗記するまでになった。10年後、彼と志を同じくする漢の高祖（沛公）に会い軍功を上げ、後には、高祖の三傑とうたわれる様になった13年後に張良は軍を率いて穀城山の麓を通った時、黄石（黄色い石）を発見した。彼はそれを持ち帰り家宝にして祭り、彼の死と共に穴にいれた。

虎の巻から虎鞜の巻

六韜三略とは六鞜すなわち、支那の周の太公望の撰と云われる兵法書で、文鞜、武鞜、虎鞜、龍鞜、犬鞜の称であり、信教育用テキストをつき混ぜた三略とは黄石公（先程の仙人）の著と云われている上略・中略・下略の三巻の兵法書の事である。六韜と三略とを合わせて六韜三略と言われる。

虎の巻海を渡る

昭和10年頃存在していた　京辞書出版K氏の虎を紹介しよう。値段は25～30銭（物価は88倍上っているんだから時価にすると90円）位で安い代りに紙質悪沢山入る。一般に知られている現在の型より少きくB7版ウ。のだけでも、先ず虎の巻、略して、虎、英訳してブック・オブ・ブック・オブ・タイガー

良心的な虎の巻

日本には70頃、遣唐使により持ち込まれたとされている。源平合戦の形部省源九郎義経が机で切り取って本に挟み易く、位の下、ポケットにも入れよい様なものだった。）

虎の巻の呼び方

いわゆる虎の巻の呼び方は大変沢山入る。一般に知られている虎の巻の呼び方は大変沢山ある。

自習書の呼び方

自習書類の呼び方は大変沢山ある。

余白拝借　校則で禁止された「虎の巻」使用

虎の巻御法度の長野県

長野県長野市の学校では、校則で禁止し学校との協定で書店にも、虎は置いてない、脳のヨワイ学生にとっては必読の書だけに中には汽車に三時間もゆられて新宿まで買い出しに行くとか、これに目をつけたジュクの本屋にはあらゆる虎がズラリ。

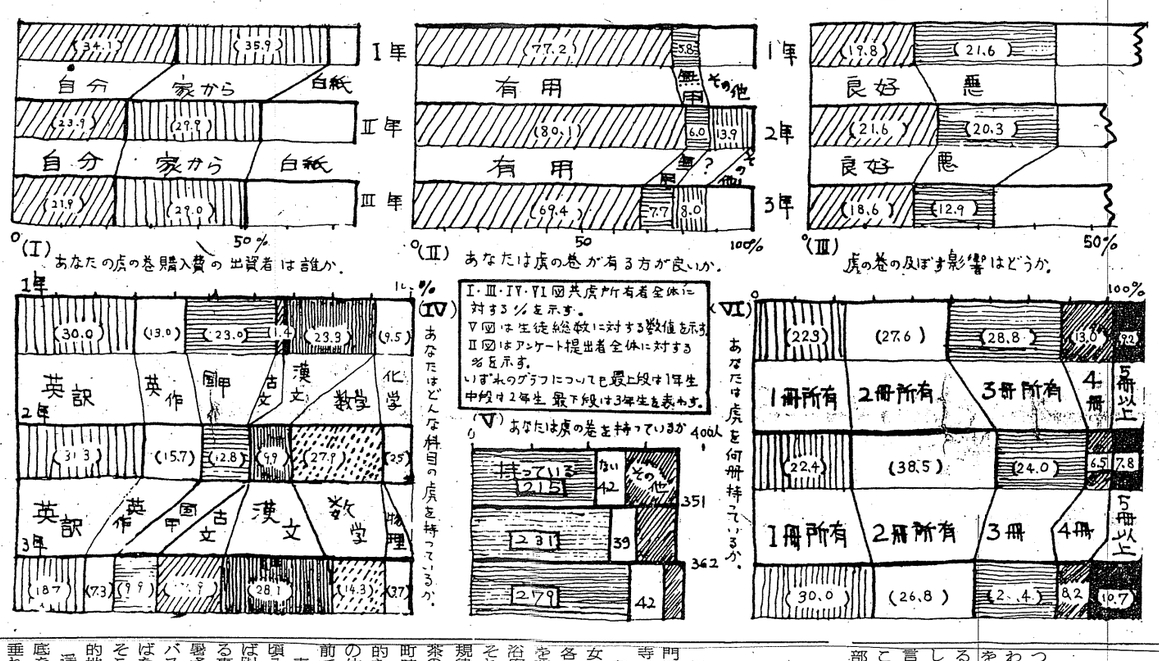
座ましますそうナ。ウワサによると神戸にも同じ様なケースがあるという。

虎の巻の本当の解釈は

自習書は二つの意を含む

①みずから習う習書物、これは自動詞的で自分自身でやる独学的な方法。

②おのずから習う書物、これは自然のなすままに任ず、ずぼらな受動的な方法がある。諸ず君はいずれをおとりかな。



ミイラ取りがミイラに

四面に特集の「虎の巻」についての材取のために天王寺区大道にある新興出版を訪ねた時の話。ある室を通ぎれてしばらく、六人もの係の人が登場してまずとぎもを抜かれ、一通りの挨拶がすんでさあ質問と思っている所へ、営業課長さんが「虎は何人持ってる。」「アンケートはどのようにした。」「一番持ち数の多い虎は。」等矢断ばに質問され質問を浴びせるつもりが浴びせられて完全にノック・アウト。社を出る時にはミイラ取りがミイラになった悔しさにA君曰く「あんなにオエラ方が面前に並ばれては面接試験されているのかと錯覚したヨ。」には皆同感の態。

みんなのひろば

ソフト部顧問の返答

○……第98号「皆の広場」掲載のソフト・ボール部についての投書に対し、同部顧問安永先生よりお答がありました。

まず予算の用途であるがこれについては「見に来ていただいてもわかる。昨年度必要であったものを購入したわけでどうこう言われる筋合いはない。自治会にも報告してあることだしそういうことを言われるのにがてんがいかない。こういうことのために自治会執行部は月一度自治会用の黒板もあるから、各部予算用途を報告すべきである。」と、以外な方向（？）に飛火した。同部活動不活発な点は昨年第二運動場修理のために出来なかったが、部員数が少なく、恵気が全員に通じなかったことは申しわけない。今年からはそんなことはないから……。とのことでした。

※　※

〝無〟の境地に入る　煎茶クラブ　極秘の部屋

場所は、京都八幡の妙心寺専門道場として坐禅で名を誇る円福寺である。

参加者は松隈、秋両先生の他男女合せて二七人。七月ともなれば各地に於て夏山リュックサックを背にした元気な登山者、海には浴客の涼を楽しむ姿が見られるがそれを尻目に我々は厳格なる坐禅規律正しい禅家の食事作法並びに茶の法式を学び得ることにより室町時代以来の日本の哲学的、宗教的なのを会得する事によってこの休暇を有意義に送ろうと云う建前で実行した。

寿司詰電車に揉まれ乍ら六時半頃八幡駅に到着。この頃ともなれば陽はかげり少しは涼しさを味える事と期待していたが相変らずの暑さ、一層荷物が重く感じられるバスの発車直後で二〇分程待たねばならず余儀なく歩くことにしたそこらの店でスイカを数个買い目的地へと急ぐ。

遥か碗々と続く山並を縫って川底を浅く透き通らせている水面に垂れ下る様に美しい色の可憐な草花、時々山間に囀る小鳥の声が暫し汗を忘れさせてくれる。

朝の看経の声が聞えてくる。朝のすがすがしい空気の中で礼拝に行った。山中で迎える朝は格別である。木立をぬけ朝の山へ登る。木にはまだ夜露にしっとりとしている。小鳥のさえずりがしじまに聞える。

朝食をすませ、七時三〇分、待ち焦れた〝坐禅〟が始まる。一瞬緊張した面持ちで坐禅堂に入る。結跏趺坐は半伽扶座して呼吸を整え止静に入る。一斉の騒音が断ち切られ耳に入らなくなる。『無』の境地である。僧が警策を手に静かに廻られる。睡魔に囚われたり、思案にふける時刺戟を与えられるのである。少しでも経験した者でなくては味えぬ落着いた心――これが心頭滅却の境地か。

悟りを開く

次いで老師より〝禅宗〟についての法話を承った。「禅宗と云えばここで詳しい事を述べる迄もないが〈禅定〉とも云い、静かに考えると云う意味で落着いて静かによく物事を考え世の中の道理を悟れば心が澄み切った水が明らかなように成る。『悟りを開いた』と云うのはこの事でこの心になった事が禅に達したのである。仏教に於ては最も大切な修業で禅宗は之を根本としている。又昔の武士は多く禅の修業により胆力を練り茶の湯、生花、墨絵等にもこの精神が含まれている。例えば生花する其時間の流れは仏前に端座して読経する事と変る事のない〈無心の境〉で手立てと異るとは云えず畢竟空々寂々たる心境に徹する事何等のかわりもないのである。」話がやや堅くなったがこの様な有難い法話を聞き茶内ぎれたのが主物殿である。多くの物を拝聞させて戴きどれほどなく感銘を受けた。

思うに、平素煎茶道に勤しんでいる我々にとって禅家の諸作法、規則がどの様に役立っているかがわかりその意味でこの宿は大変意味あるものだった。将来部としてもこれを続けて行きたいものである。

（部長記）

〝無〟の境地

午前五時、〝ポク、ポク、ポク〟寺中に響く木魚の音、本堂から〝ピンピンピン〟と鳴る鈴の音、〝ピンピンピン〟と鳴る鈴の音、〝ピンピンピン〟と鳴る鈴の音、